

2022年
7～9月期

廿日市市景況調査

Economic survey

全国の景況：日本商工会議所

全産業合計の業況DIは、▲23.3（前月比▲2.3ポイント）。高騰が続く資源・原材料価格に加えて、電気代のさらなる値上がりや、140円台まで進んだ円安の急伸による輸入品の価格上昇など、企業のコスト負担は増加し続けており、全業種で業況が悪化した。さらに、サービス業・小売業では物価高による消費マインドの低下、建設業では人手不足対策としての人件費増加が業況を下押しした。製造業では部品の供給不足、卸売業では台風等の天候不順による物流コストの上昇が業況を下押しした。感染状況が落ち着き、人流も回復基調にあるものの、増加し続けるコスト負担が企業経営の重荷となり、中小企業の景況感は2カ月連続の悪化となった。

廿日市エリアの景況：廿日市商工会議所

※旧廿日市市(合併後の区域)の調査結果

全産業合計の業況DIは▲7.5ポイントと前回調査（4～6月）からマイナス幅は縮小。産業別では、製造業が前回値（▲8.3）から今回値（7.7）、建設業が前回値（0.0）から今回値（20.0）と改善したが、卸小売業では▲22.2ポイント、飲食・サービス業は▲23.1ポイントと、コロナ禍の長期化もあり依然として厳しい状況が続いている。また、令和4年10～12月の先行き業況は▲13.2（前回値▲2.9）と、資源価格や原材料価格高騰、円安によるコスト増加等、様々なコストアップが企業への負担となっており、価格転嫁を十分に行えていないことが企業の業績に追い打ちを掛けている様子である。

事業者の声

事業者の声	
【製造業】	<ul style="list-style-type: none">・原材料費、動力費の上昇影響が大きくなってきた。（食料品製造）・売上は販売数量減となるも価格引上げにより増加。利益はコストアップもあり横ばい。（木製品製造）・コロナ禍で減少した仕事が回復しない。（印刷）・メーカー側が半導体不足で生産が滞った分、修理の依頼が増加した。（精密機械製造）・コロナ第7波沈静化により経済活動、消費活動は回復しつつあるが、原料費上昇、インフレ、賃金引き上げの据え置きから、本格的な回復には至っていない。（食料品製造）・足許の景況感（需要）は悪くないが、先行きについては物価高、円安、資源高等の影響で下押しの可能性を見込む。（木製品製造）・上半期の原材料価格の急騰に対する製品値上げが初秋に完了。今後の受注確保がカギ。（樹脂製品製造）
【建設業】	<ul style="list-style-type: none">・円安、品不足、ウクライナ問題と景気が良くなる材料に乏しい。（建設）・消費行動の低迷（給与が上がらない、コロナ等）。（建設）・物価上昇により利益率が低下（建設）
【卸小売業】	<ul style="list-style-type: none">・ガソリン価格をはじめ諸経費高騰により利益を圧迫している。（卸小売）・コロナで人々の流れが少なくなり、そのまま売上減となっている。また競合店舗が増えて売り上げの分散となっている。（コンビニエンスストア）・製品値上げの動きが顕著になってきた（卸小売）
【サービス業】	<ul style="list-style-type: none">・前年比で好転となるも、コロナ前の水準までは回復していない。7月～8月は飲食、宿泊は繁忙期であるが、広島県の感染者増に伴い、想定していた売上を下回った。（ホテル・飲食）・コロナの状況に左右される状態。（保険代理）・需要が減少しており、販売単価の見通しがつかない。（サービス）・業況が低調に推移しており、資金繰りに苦慮している。（サービス）・前年同程度にて推移する見通し。（サービス）

業種別景況概要	前年同期	7~9月と先行き見通し									
	全産業	全産業		製造業		建設業		卸小売業		飲食・サービス業	
	7~9月	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
収入・売上	▲7.5	15.0	▲15.8	61.5	▲9.1	20.0	0.0	▲33.3	▲44.4	0.0	▲7.7
仕入価格	47.4	87.2	78.4	92.3	90.9	100.0	80.0	100.0	77.8	66.7	66.7
採算	5.0	25.0	13.2	38.5	45.5	80.0	40.0	11.1	0.0	0.0	▲15.4
雇用人員	▲23.1	▲35.9	▲32.4	▲46.2	▲27.3	▲80.0	▲80.0	▲22.2	▲22.2	▲16.7	▲25.0
業況	▲2.5	▲7.5	▲13.2	7.7	9.1	20.0	▲20.0	▲22.2	▲33.3	▲23.1	▲15.4
前回調査	▲26.7	▲11.4	▲2.9	▲8.3	8.3	0.0	▲25.0	▲42.9	▲28.0	0.0	8.3

(対象 65 社 回答 40 社)

●DI値（景況判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断状況を表す。ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上など実数値の上昇や下降を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりや意味する。

※DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

収入・売上：(増加) - (減少) 仕入価格：(上昇) - (下降)

採算・業況：(好転) - (悪化) 雇用人員：(過剰) - (不足)

DI値 数値の目安

特に好調	50 ≤ DI
好調（上昇・過剰）	25 ≤ DI < 50
まあまあ	0 ≤ DI < 25
不振（下降・不足）	▲25 ≤ DI < 0
きわめて不振	DI < ▲25

■設備投資は？

回答 38 社中

7~9月			R4. 10~12月 見込み
実施した ・する	土地	1	2
	建物	2	5
	機械	9	7
	車両	9	6
	IT機器	5	5
	その他	4	4
	計	30	29
実施していない・しない			23

■当面の問題点は？

※回答のその他はランク外扱い

第1位	材料費や仕入価格が上昇	22.7%
第2位	従業員や人材の確保が難しい	16.8%
第3位	売上、需要が増えない	14.3%
第4位	人件費が増加している	11.8%
第4位	新型コロナの影響がある	11.8%

